

3. 調査結果のまとめ

3. 1 秋入学に関する興味・関心について

秋入学に興味・関心がある者が全体の約 60%を占めた。文系・理系別に見てもほぼ同様の結果である。ただし、回収率を考えると、この数字が東北大生全体の傾向を反映しているのかどうか、判断するのはむずかしい。もともと秋入学に対して高い問題意識を持っている層が調査に協力している可能性を考えると、この数字が必ずしも高いとは言えないだろう。

秋入学の導入と留学意欲との関連では、留学したい気持ちが「強まる」と回答した者は 37%にとどまり、「変わらない」と回答した者が全体の 60%を占めた。また、文系・理系で特に違いは見られなかった。秋入学導入が留学の促進と必ずしも直結しないことを示唆する結果である。ただし、留学したい気持ちが「強まる」という回答と後述する秋入学導入の賛否との間には明らかな関連があることから、留学意欲の高さが秋入学への賛否に影響していることがうかがえる。

3. 2 秋入学に関する賛否について

秋入学導入の賛否では「賛成」が全体の 30%程度にとどまり、「反対」と「賛成とも反対ともいえない」が 35%程度であった。賛成、反対、保留にほぼ 3 分され、関心の高さが秋入学への支持に直接つながっているわけではないことがわかる。この傾向は、文系・理系とも共通して見られる。

最も魅力を感じる入学・卒業の時期については、「現行方式」が最も支持され、44%の対象者が選択した。入学・卒業時期について保守的な考えを持っている者が多いことがわかる。現行方式と秋入学とのいわば妥協の産物である「春入学・秋始業」についても支持は多くなかった。ここでも、文系・理系で大きな結果の違いは見られない。秋入学導入の賛否別に見ると、賛成層における秋入学支持は圧倒的である。しかし就職時期については、現行の採用システムどおりの場合（「秋入学・夏卒業で翌春就職までの間に移行期間がある方式」）と採用システムを変える場合「秋入学・夏卒業でそのまま秋に就職する方式」で、支持は 2 分された。秋入学反対層では「現行方式」への支持が圧倒的であった。

秋入学導入に対して整備が必要とされる事項として 9 割以上の学生が挙げているのが、「就職」に対する対応（「卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくること」「現在の就職活動における新卒一括採用への偏重を是正すること」）と移行期間における対応（「入学予定者を対象とした、移行期間に行われる各種プログラムを充実させること」）であった。秋入学によって就職に不利になる点や移行期間における生活への不安が、秋入学への支持を抑制する要因になっているものと思われる。秋入学導入の賛否別に見ると、反対層において「小学校から高校まで、すべての教育機関で秋入学を実施すること」が必要だとする回答が 50%を超えている点が興味深い。大学のみが秋入学を実施することのデメリットについて敏感であることがうかがえる。

3. 3 移行期間について

移行期間における不安要素について尋ねたところ、文系・理系ともに「自堕落な生活をしてしまう」「入学までに学力が低下すること」「移行期間の過ごし方次第で、入学する学生間に格差が生じること」「移行期間の生活から大学での生活にうまく切り替えができないこと」などを選択する割合が高かった。いずれも、学校から切り離された生活への適応に関係しているという点で共通している。秋入学導入の賛否別に見ると、反対層において「高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと」を選択した者の割合が約 80%を占めている点が注目される。

移行期間に行いたい活動として最も多かったのは「自動車免許など短期間での資格取得」であり、72%を占めた。次いで「趣味・教養」「アルバイトによる貯蓄」の順で選択する者の割合が多かった。それ以外の項目は多くても 20%台であり、多くの学生が移行期間に行いたいと考える活動の種類は多くない。秋入学賛成層で「海外・語学研修」の選択率が高くなっているのは、留学意欲の高さと関係があるだろう。

移行期間における活動プログラムへの参加については、「参加したいと思わない」割合が「参加したいと思う」割合よりも上回った項目は2項目（「遠隔地からも参加できるeラーニングによる活動」「高校までの学習内容の補習教育」）のみであり、全体的に参加希望が多いことがわかる。特に参加希望が多かったのが、「大学での研究活動などの体験活動」「英語などの語学学習」「入学予定者間の親睦を深めるような交流活動」であった。また、「非常に参加したいと思う」が突出して多かった項目は「海外研修」であった。移行期間に行いたい活動に関する質問（Q1）で「海外・語学研修」の選択率が22%にすぎなかったことと比較すると、移行期間の過ごし方について大学に依存する傾向がうかがえて興味深い。秋入学賛成層で「留学準備のためのプログラム」の選択率が高いのも、留学意欲の高さに関連があるだろう。